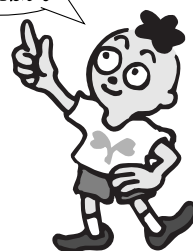


この夏、新しい国際交流員の方が2名仲間入りしました。アメリカ出身のキャシー ラバさんとドイツ出身のハナコ フーヴェさんをご紹介します。

ちょっと
言わせてはいよ



Howdy!

カウボーイっぽいあいさつで"
こんにちは"という意味です)

(キャシー・ラバさん)

私は、アメリカのモンタナ州から参りましたキャシーラバと申します。熊本市役所で国際交流員として勤めています。今回念願かなって、再び熊本に来ることができてすごくうれしいです。

私は、モンタナ州のリードボイトという町で生まれ、18才になるまで家族(父、母、姉2人)と一緒に生活をしていました。そこは、人口150人ぐらいの小さな町ですが、牛や羊、そして豊かな自然に囲まれたところです。

私は、4年前の大学2年生の時、熊本県とモンタナ州が姉妹州の関係で熊本学園大学に1年間交換留学生として滞りました。その時は全く日本語が分からない状況でしたが、皆さんがとても親切で、楽しく過ごす事ができました。またこの時の滞在中、日本料理が大好きになりました。中でもお寿司が最高で、老後は自分でお寿司の店を出したいくらい好きです。そしてモンタナに戻り大学4年生の時、国際交流員の試験を受けました。もちろん、第一希望は熊本！今年の4月に合格通知と配属先が熊本に決まってとてもうれしかったです。だから、また、この熊本に住める事が大変幸せです。

これから、国際交流会館や国際交流課での勤務の他に、日本語も学習しながら、市内の小中高校、大学、クラブやサークル、公民館、地域コミュニティーセンタなどで、国際理解、異文化理解、国際交流に関するイベントを行なう予定です。モンタナの紹介を皆さんに、そして、熊本の事をモンタナの皆さんに紹介したいと思っています。今は、毎日職場の窓から見える熊本城をながめながら、熊本に再び戻って来られた事に感動しながら楽しく仕事をしています。



◀父が働いている牧場の馬と一緒に

マクドナルド湖▶
をバックに姉夫婦と



こんにちは

(フーヴェ 花子 クリスティーネさん)



(左から花子さん、キャシーさん、王さん)

本年4月より勤務している中国のCR王さんとキャシーさんの3人で火の国まつりへ参加。チームワークもバッチリです！

私は、フーヴェ 花子 クリスティーネと申します。母は日本人で、父はドイツ人です。

日本語ではその場合、ハーフと呼ばれていますね。でもドイツで生まれ、ずっとドイツに住んでいました。だから自分のことはハーフとは言い難いです。私は、ハノーバーの近くにあるエヒテという小さな村で生まれ育ちました。

皆さんは、日本人がどのようにドイツの田舎に住むことになったのか、考えるかもしれません。実は、父が交換プログラムを利用して日本へ短期留学した時、母の家にホームステイしたのがきっかけで結婚をしたということでした。私はエヒテで幼稚園や小学校に通いました。そのころは母と日本語で話したり、2年に1度くらい、夏に母の実家がある大阪に遊びに行ったりしていました。近くの小さな町で高校を卒業した後、ドイツでは 트레이ニーと呼ばれる企業で研修を受けるシステムがあるので、それを利用して日本(松下)とドイツ(Bosch)の合併会社で働くことにしました。その職場のドイツ人からは日本語を教えてほしいと言われました。しかし、うまく教える事ができませんでした。その事がきっかけとなって、きちんと言語の教え方と日本語を勉強しようと思い大学へ進学して勉強する事にしました。そして言語教育学や日本語と韓国語の勉強をしました。外国人のためのドイツ語の勉強もしました。そんなとき、アルバイトでドイツ人の子供達に日本語を教えて、日本の歴史について少し話しました。

いままでは、ドイツで日本と関係のあることをしていたので、これから、熊本では、その反対のドイツ関係の仕事ができるので、とても嬉しいです。熊本の人々はとても親切で町並みもきれいなのですっかり好きになりました。これから日本の社会に入ってみて、本当の意味でのハーフの状態に近づくことが出来るかもしれません。